

日本人の英語が外国人に嫌われる意外な理由とは？

02月02日 17:01



年末年始に成田空港から出入国する乗客は、前年同期比4%増の126万7800人に達した。日本の季節が冬ということで、英語圏の比較的言葉の通じるハワイやグアムなど暖かい場所が特に人気だった。

海外旅行の醍醐味と言えば観光もそうだが、旅先での現地の人たちとのちょっとした触れ合いも、異国の文化を感じることができ、多くの方の海外旅行の楽しみの一つになっているのではないだろうか。

でも、そんな楽しい現地の人たちとの触れ合いの中で、こちらは拙い英語を満面の笑みで一生懸命話しているのに、知らず知らずのうちに相手をイライラさせたり、もしかしたらこちらに悪気はなくても相手に嫌われてしまう事があるという。

株式会社しちだ・教育研究所の七田厚氏（）は日本人が長期間勉強しても英語が話せない理由について「日本人は『読み書き中心』の勉強文化なども含めて、言語の習慣が英語向きではない」と分析する。

七田氏によると「日本人は英語の発音をローマ字にあてはめて読むことに問題があり、そのためネイティブの発音と異なる発音で覚えてしまうことが多いのです。例えば、仕事とはいえ音程の外れている音楽を一日中間かされる現地の人々の気持ちはどんな感じでしょう。そうすると、日本人は好きだが、正直なところ連日同じような英語力の旅行者が多いと会話するのは少し疲れるね、という事になってしまうのです」と、日本人の英語力に警鐘を鳴らしている。

ただ七田氏は「実際にネイティブの日常会話を分析したところ、60のパターンを使った英会話フレーズが頻繁に使われていることがわかった。ネイティブはこのような決まったパターンのフレーズを、頭で考えることなく、そのまま口からポンポンと発音することができる」という。「一日2つ覚えれば60パターンという期間にして一か月で可能で、この60パターンの例文（フレーズ）をネイティブな発音で聞くことができ、そして覚えることができれば、前述のように約一か月で自然に口から言葉が出せるようになり、日常英会話はいとも簡単に出来る可能性がある」という。

日本の英語の試験というものは長文で和訳や文法問題が多く、リスニングは少なめなのに対し、海外の試験は、英語での面接や論文が中心である。そのため、海外の学生は小さいころから英語でディスカッションをしたり、論文を書く訓練ができていたため、生きた英語が身につけやすいのである。文法や使い方を覚え、日本人独自の英語をローマ字に当てはめて考えるという習慣を捨て、ネイティブの日常会話のフレーズをそのまま覚えてしまうことが、海外での現地の人たちとの触れ合いを楽しむポイントになり、今よりも充実したバカンスになるかもしれない。